

○ 軌道系の整備断念 広島空港民営化で県表明、採算見通せず

2018/8/24

広島空港（三原市）で最大の課題であるアクセス手段の改善策を巡り、広島県は23日、ＪＲ白市駅（東広島市）と空港を結ぶ鉄道の整備を断念する考えを示した。採算を確保するためには空港の年間乗客数が少なくとも1千万人になる必要があるとして、現実的ではないと位置付けた。アクセスの向上は道路網の整備や改善を軸とし、経済界などの理解を得たい考えだ。



2021年4月の空港民営化に向けた魅力づくりなどを議論する官民組織が23日、県庁で開いた会合で提案した。9月6日の次回会合で、その是非が審議される。広島都市圏と空港を直結するリニア鉄道なども含めて、旧広島西飛行場（広島市西区）から移転する前の1989年から検討されてきた軌道系アクセスの整備を巡る議論は、大きな転換点を迎えた。

県は今回、アクセスの改善策を採る一環で、鉄道の採算性をはじいた。ＪＲ白市駅と空港を結ぶ約8キロを367億円で建設し、広島駅と空港を直通54分で結ぶと想定。空港の乗客数に占める鉄道の利用者は、10年の採算性調査の2割から9%に引き下げた。広島高速5号の開通で、空港リムジンバスの乗客が増えるの見込みだという。

この結果、採算を確保できる空港の年間乗客数は1千万～1070万人となった。県がこの日の会合で示した、民営化の最終年度となる50年度の乗客数の目標は500万人。現行の1・7倍の水準だが、採算ラインの半分の水準だった。

広島空港の軌道系アクセスを巡る広島県の試算

軌道の接続点	距離	所要時間	事業費	空港利用者の採算ライン
ＪＲ白市駅	8キロ	※54分	367億円	年1千万～1070万人
ＪＲ西条駅	16キロ	※52分	—	—
ＪＲ広島駅	45キロ	34分	9600億円	年2千万人以上
ＪＲ広島駅 (バス専用高架)	45キロ	45分	3200億円	—

【注】所要時間はＪＲ広島駅—広島空港間で、※は直通運転した場合。—は試算なし